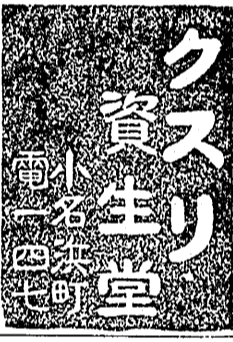


夕刊
日三十二月八
發行所 伊藤隆次
福島縣小名濱町五番一
日刊日曜祭日休刊
一冊二角 一月三十角
廣告料 一行五十銭



クヌシリ
玉川駐在所
竣功
鈴木巡査駐在
時局をわきまへず物資總動
員下に暴別を食つた奸商が
平市及び小名濱町に現れた
平署ではかねてから經濟警
察を出動調査の結果公定價
格の五割以上の暴利三件、
三割以上十五件、三割未満
十一件、計二十九件を摘發
被告處分に附した、主なる
もの次の通り
▲平市二町目飯島時計店
を八十三圓

暴利を貪る奸商
平市、小名濱町で二十九件
平署で嚴重戒告
で二圓二十銭のメダネ線
を二圓五十銭 ▲同五町
目星野要吉方で二圓五十
銭 ▲同二町目仙台屋呉服
店で七圓八十銭の銘仙を
九圓九十銭 ▲小名濱町高
橋商店で三十圓の密音機
を四十圓 ▲同町菅野自轉
車店で五十六圓の自轉車
を八十三圓

大日本海洋青少年團 小名濱支部設立の氣運

海軍班が主体で奔走中

今事變が教育者に要すると使命と鑑み漁洋を道場
ものは何んであろうか、従として青少年の心身を鍛鍊
來の教壇主義教育偏重を是し健全なる海洋健兒を養成
正して訓育と校外指導に一するの意氣込みで小名濱海
層の力を致す事と考へる、洋青年團支部の設立に奔走
そんな意味から小名濱海中であるから本部の指揮を
軍班鈴木七郎氏等が中心と仰ぎ近くその發會式を見る
なり本町の有する特殊地勢模様である

職業紹介法 違反

赤井の飯場頭検査
赤井村西小川福島炭礦飯場
頭愛媛縣伊豫郡中町生れ宮
内都三郎(四三)は職業紹介法
違反で平署に檢舉取調中
宮内は去る一日北海道古
宇郡泊村所在茶沼炭礦の
坑夫募集廣告を新聞で見
て悪心を起し常局の許可
なく福島、大倉、山口、
川瀬各炭礦から坑夫約三
十名を引抜き内十名を
前記茶沼炭礦に送つたも
の、平署管内における新
法施行後最初の違反者で
ある

妻子四人を残して 銀行員浪に呑まる

七十七平支店佐藤君

平市柳町一六、七十七銀行
平支店行員佐藤安代君(三三)
は二十一日午前十一時頃同
僚数名と四倉海岸で海水浴
中浪に呑まれて行方不明と
なつた、四倉署で死体搜索
中だが二十二日正午までに
はまだ発見されな
同君は宮城縣氣仙郡廣田
村字羽根穴出身で昨年三
月本店から平支店詰とな
つたもので水泳は激育ち
だけに非常に達者だつた
妻雪子さんは三日ばかり
社詰に近く轉動することに
義雄氏は會計主任をして職

日本水素の歓迎會

送、吉本氏迎へる金原前田兩氏 會社大食堂で簡素に

既報の如く、日素元庶務會なり、氏に代つて入社せる
主任主任吉元啓一氏は急々本金原武氏は總務主任、前田
委員會を事務所樓上に開き
二十四日は發會式を舉行す

崎野氏遺憾の意を表し 平消防組釋然

縣會の舌禍問題解決

昨年の通常縣會における野崎滿藏氏の平消防組に關す
の失言問題は當の平消防組をはじめ一般識者の激評を
買ひ上組頭、關内副組頭外二氏は「光輝ある平消防
組のために」と斷乎野崎氏を名譽毀損で告訴し各方面
から成行きを監視されてゐたが其の後本平署長、青
沼平市長、諸橋久太郎氏、小田吉治氏等が仲裁に入り
昨二十一日夜關内正一氏、野崎滿藏氏が前記諸氏と會
合、野崎氏が種々釋明して遺憾の意を表したので關内
氏も釋然とし問題は半歳振りで解決した

日素特設防護團の準備 委員長、杉原技師長

發會式は二十四日

日本水素工業にては時局下の管だが委員には左の人々
の〇〇工場として世の注視が富つてゐる。
の的となるに鑑み今回特設
防護團結成の爲めに杉原技
師長を委員長とし準備委員
五名を擧げ今夕最終の準備
委員會を事務所樓上に開き
二十四日は發會式を舉行す

暴利を貪る奸商 平市、小名濱町で二十九件

平署で嚴重戒告

時局をわきまへず物資總動
員下に暴別を食つた奸商が
平市及び小名濱町に現れた
平署ではかねてから經濟警
察を出動調査の結果公定價
格の五割以上の暴利三件、
三割以上十五件、三割未満
十一件、計二十九件を摘發
被告處分に附した、主なる
もの次の通り
▲平市二町目飯島時計店
を八十三圓

先進都市を尻目に 「マイク」で全町に呼懸く

興隆小名濱は、こんなもんだ

興隆小名濱町設備の一つと十字屋に設計見積を取るべ
して今計画中になる役場に申込んで居るが工費約五
「マイク」を据付け全千圓位の豫定、で實現の曉
町極要の位置に擴聲機五十は小名濱はこんなもんだ
個を配備して町の示達や防と先進都市にハナの頭でも
空上の警報は聲で知らせるすり上げて見たくなる朗朗
の設備であつて、今、東京なるニュース

日本水素第二回會 何れも佳作で賑ふ

八月二十四日午後六時より夕七時と雨に明るき雁來

日素事務所樓上に第二回會
會を開催したが若人には珍
しく俳人が多く佳作揃でハ
ナをうごめかしてゐる
病めばわが命おもほゆ虫の
聲
爽涼の涼ゆ夕づゝうるみて
は
かまつかに夕日ほつかりと
落ちつきぬ 同
爽かに雲の流るる海の上
な且かな 小野つる子

峰松 宏泉
さわやかに海霧深かければ
眉を上げ 同
さわやかに波音返す夜空か
な 同
手に觸るゝ稻のぬくみや秋
祭 塚本 久計
獨り酌む酔ひを園りて虫し
ぐれ 同
出で水の跡くろくくと秋祭
同
虫鳴くや背の跡のひそかに
後藤 紅二
さわやかに爪先にくる朝の
浪 同
虫月夜此の山裏にひびく浪
鈴木珠麟子
虫鳴くやおほろに出し山端
同
虫すだく川邊の寮や風靜
霧香る園生に床し葉鶏頭
同 光瀧
さわやかに露の野を行く人
馬かな 坂下ひろし
(錦ヶ岳)
さわやかに雲海はるかな日
の出 同
さわやかには露もつ草の陽光
かな 飯田 秋芳
草むらに葉鶏頭一つ西日か
な 同猫追ふて
虫に物いふとめかな
加藤 香風
さわやかに影を作業服に
換ふ 同
植えかへて葉鶏頭に支柱立
てにけり 柴田 雪市
祝燈に映る晴着や秋祭り
同
もろこしの葉すれさわやか
な且かな 小野つる子

